

# 新潟県教育界における「学閥」問題（第十四回）

いがた県民教育研究所「学閥」研究会

## 第八章 資料編 新潟県の各市町村・学校・組合

における「派閥」支配の実態（その一）

―新潟市・長岡市・上越市・栃尾市・古志郡・三島郡―

今回からは最近の十年間について各学校ごとの校長・教頭の所属派閥のデータを示すことを中心にして、「派閥」支配の実態について具体的な資料を提供する。今回は（その一）として

- 1、新潟市
  - 2、長岡市・栃尾市・古志郡・三島郡
  - 3、上越市
- について検討する。

管理職ポストの「派閥」支配の表についての説明

（所属派閥）

所属派閥を次の記号で示す。

- 「ときわ会」
  - 「公孫会」
  - \* 「新陽会」
  - △ 「検友会」
  - + 「青菫会」
  - ▽ 「女教員会」
- なお二つの派閥に二重に加入している場合は
- ◎ 「検友会」 + 「ときわ会」
  - ▲ 「検友会」 + 「公孫会」

⑦ 「女教員会」 + 「ときわ会」

▼ 「女教員会」 + 「公孫会」

なお無派閥（非派閥）を示す必要のある時は☆印を用いる。  
新潟県下の小・中学校の総数は約千校であり、したがって校長＋教頭のポストは一年につき約二〇〇〇である。十年間ではのべ約二〇〇〇〇ポストとなるが、しかし無派閥の管理職は一人もいない。

（学級数）

学級数については表中の最も新しい年度（今回の場合は一九八九年度）について示した。また廃校の場合はその学校の存在した最終年度について示した。

（へき地）

へき地校の指定のある場合、へき地特地を「特地」、準へき地を「準へ」、へき地一級地をへき地五級地を「へ1」～「へ5」として示した。なおこの順序に「へき地度」が大きくなる。

（類型）

各学校管理職ポストの「派閥」指定席化にともなって、学校ごとなどの「派閥」が「支配」しているかを類型で示した。

A a 校長・教頭とも「ときわ会」

B b 校長・教頭とも「公孫会」

C c 校長・教頭とも「新陽会」

D d 校長・教頭とも「検友会」

校長・教頭の「派閥」が異なる場合は校長を大文字で教頭を小文字で示した（たとえば校長が「ときわ会」、教頭が「公孫会」の場合は「Ab」とした。「青萐会」は一九九〇三月にすべての現職会員がいなくなるので、かつて「青萐会」指定席であっても（Ee）、できる限り「新しい」派閥支配の類型を示した。「女教員会」ポストは「ときわ会」と「公孫会」の貸席であるので（本進蔵第十三回参照）類型から除外したが、他の「派閥」とともに調整的に使用される傾向のあるポストについては、（ダッシュ）を付した。（たとえばは基本的には「ときわ会」の指定ポストであるが種々の調整のために「女教員会」、「検友会」、「青萐会」などにも一時的に「使わせる」学校を示す。このような学校は小規模校で「検友会」の「指定席」になっていない学校が多い）。

1、新潟市

新潟市の小中学校における校長・教頭ポストの「派閥」支配の実態を第1表および第2表に示す。

小学校においては校長・教頭とも「ときわ会」の指定席にされている学校（類型Aa）が圧倒的に多いが、坂井輪小と濁川小は校長・教頭とも、また西内野小の校長は「検友会」の指定席となっている。また調整ポストをもつ学校は南





第3表 新潟市内の「公孫会」管理職ポストの推移 (1973~1989年)

年度	異動ポスト	契機	「公孫会」管理職ポスト数						合計ポスト
			小学校		中学校		小・中合計		
			校長	教頭	校長	教頭	校長	教頭	
1989年	五十嵐中・校長	「育苺会」校長の退職	8	6	3	3	11	9	20
	下山中・校長	学校新設							
	(減)大畑小・校長	廃校							
1986年	(減)中野小屋中・校長	「ときわ会」へ返却	9	6	1	3	10	9	19
1985年	山の下小・校長	「ときわ会」より奪還	9	6	2	3	11	9	20
1984年	中野小屋中・校長	「ときわ会」より借用*	8	6	2	3	10	9	19
1983年	山潟中・教頭	学校新設	8	6	1	3	9	9	18
1982年	山潟小・校長	「ときわ会」より奪取	8	6	1	2	9	8	17
	小新中・教頭	学校新設							
1981年	山の下中・教頭	「新陽会」より奪取	7	6	1	1	8	7	15
1980年当時	【校長】 烏屋野小、丸山小、大淵小、 木山小、赤塚小、南中野山小、大畑小、 山の下中 【教頭】 山の下小、山潟小、丸山小、 木山小、南中野山小、西内野小		7	6	1	0	8	6	14
1973年当時	【校長】 大畑小、山の下小、木山小 【教頭】 烏屋野小、山の下小、木山小		3	3	0	0	3	3	6

\* 上越市南本町小・校長ポストと相殺

支部および三市中蒲支部とともに「派閥」のいいなりにならない組合活動を行っている。このような組合活動を抑圧するために、管理職の支配する「派閥」を通じて種々の指令が出される。資料1は「ときわ会」の文書の一例で、新潟市支部や県大会の大会代議員のすいせん(供出)を「派閥」の年度会に指令した文書であり、組合本来のあり方をゆがめるようなことが今でも平気で行われている。

## 2、長岡市・栃尾市・古志郡・三島郡

まず小学校について長岡市(第4表)および栃尾市・古志郡・三島郡(第5表)の場合を示した。これらの地域では「ときわ会」と「公孫会」の支配が相半ばしていることと、栃尾市や古志郡のへき地校では「檢友会」の比率が高いことが特徴である。さらに校長と教頭が同一「派閥」の例が多く、あそこは「ときわ」の学校、ここは「公孫」の学校という「縄張り」と「棲み分け」ができて上っている。したがって校内の教員も「派閥」によって系列化され、人事異動も「派閥」次元で行われている。

中学校についてその実態を第6表に示すが、「新陽会」ポストがかなりあることと、校長・教頭の所属「派閥」の異なる学校が小学校にくらべてやや多いことがその特徴である。そのような学校の校長は「新陽会」であることが多く、校内教員の「派閥」による系列化も比較的弱い。たと

昭和54年1月19日  
 年度代表各位  
 宮田・星野・田村三組の代表  
 世話人 [ ]

執行委員・県大会代議員候補の皆さん  
 依頼について

一般に寒気がさかしくなってきましたが皆様にはご健勝のことをお祈り申し上げます。  
 つきましては、即興の年度代表者会への議題として、5期・6期の年度代表から、星野・宮田とよろしく、預い要請があり、芳場一政ご全面の賛成をいたしました。  
 それに合わせ、とさか委員の一員である星野先生から、県本部の副委員長に立候補を決定していただくに付、地元新潟市の執行委員4名、8名以上、県大会代議員は19名以上選出すること0%絶対の条件であったことが話題がなされた。このことについて御注意いたしました。

その結果、年度で適当な方とあると数名程度開がでていたが、全体と見て調整しているということになりました。

たいへんご多忙の中にもかかわらずごごさへお寄せ、立候補者のリストが1月末日に決定してございます。各記によって1月23日(火)の正午まで氏名をお知らせくださるようお願いいたします。

記

1. 報告期限 1月23日(火) 正午
2. 報告先 新潟県立阿部小学校  
[ ] 宛  
電話の場合 46-2166  
46-2167
3. 推薦人数 執行委員候補者 2~3名  
県大会代議員候補者 3~5名

※リフレ

執行委員・県大会代議員候補の皆さん  
 報告書

期 年度代表各位

	氏名	職務
執行委員		
県大会代議員		

資料1 「派閥」(ときわ会)による組合役員供出の指令文書

えば長岡北中は校長「新陽会」、教頭「ときわ会」であるが教諭(一九八五年度二十六名)の所属「派閥」は「ときわ会」四名、「公孫会」三名、「新陽会」五名で「派閥」所属者は計十二名であり、非派閥の教員は十四名で過半数を越えている。このような学校は良識ある教員からは「三派連合」と冷笑され、また「派閥」自身もそのように自嘲している。一方長岡南中では男性教員三十一名のうち二十六名までが「ときわ会」、長岡東北中では男女あわせて四十三名の教員のうち二十八名までが「公孫会」である。また長岡南中には「公孫会員」はおらず、東北中に「ときわ会員」はいない。このような学校は自分の所属「派閥」が「世界」と錯覚する場となっている。

3、上越市

上越市における小学校(第7表)および中学校(第8表)の管理職ポストの「公孫会」支配は見ての通りである。公教育とインフォーマル組織の「けじめ」などというものはこの地域においてはさらさらない。そして「派閥」の公教育への介入を許さず公正な教育行政を行うことに責任のある「上越市教育長」は第9表に示すように「公孫会会長」の天下りポストにされている。

(つづく)









第9表 「公孫会」会長と上越市教育長との関係  
(1975~1989年)

年度	「公孫会」会長（勤務校）	上越市教育長
1989	堺 嘉治（大手町小学校）	本山松郎*
1988	本山松郎（城西中学校）	田中 正
1987		
1986	下村省一（大手町小学校長）	久保田順三
1985		
1984	笠井永吉（大町小学校）	清水貞彦
1983		
1982		
1981		
1980	田中 正（大手町小学校）	清水貞彦
1979	久保田順三（城西中学校）	
1978		
1977		
1976	久保田順三（城西中学校）	清水貞彦
1975		

\* 本山松郎氏は1989年7月27日付上越市教育長に発令

\*\* 大島宏氏は元上越市立大手町小学校長、「公孫会」副会長

〔訂正〕本連載第十三回（「教育情報」第三号）の八七ページ上段一五行目「元新潟県教組副委員長（一九八八）」は「同（一九八六年）」の誤りでしたので、訂正いたします。

## 読者からのたより

号を重ねるごとに内容がすばらしくなっていくと、敬意を表します。会員でありながらあんまり協力できないことを心苦しく思っています。

ページ数や特集の都合もあるかと思うが、現場の人として「教育実践の記録」もあつたらと思うのですが。

（西蒲原・坂爪英世）

「教育情報」二二号ありがとうございました。今春退職し、肩の荷が降りたようにゆっくりしていますが、窓の外から眺め、考える関心だけは持ち続けたいと思っています。

「進学校における授業内容」興味深く読ませていただきました。具体的展望の深まりを期待しています。

（中頸城・松岡敦子）